

令和6年7月19日(金) 専門研修6「指導に活かすアセスメント～もっと知りたい子どもたちのこと～」を実施しました。

研修当日は、多くの小中学校で一学期終業式の日でしたが、「子どもたちのことをもっと知りたい」と思う先生方の申し込み・参加がありました。

講義1は「子ども理解について」として、子どものことを知るための視点や考え方・方法について、講義2は「心理アセスメントの活用」として、心理アセスメントの種類や役割等、アセスメントの結果をどのように活かすかについてお伝えしました。

演習では、検査報告書から実態把握や支援策の検討につながる情報を読み取ったり、研修者が事前に作成した支援策の資料を、1日の研修で得た知識や気付き等に基づいて見直し、支援策を再検討する活動に取り組みました。



受講者からは、「アセスメントがとても大事だということを再認識した。支援策は本人を知ることから見えてくるものだと感じた」「子どもの弱み(課題)だけに目がいきがちだが、一つ一つ丁寧に考えたとき、強みや得意なことがあることが分かった」などの感想がありました。

子どもたちに寄り添い、指導や支援を実施している先生方が、子どもたちのことをより知ろうとする、より知ることで日々の取組が充実し、子どもたちのより良い学び、生活につながります。研修を通じてそれらを実感することのできる1日となったようです。